

Japan Evangelical Theological Society

# 日本福音主義神学会

## J·E·T·S·NEWS Vol.14

発行所/〒270-13千葉県印旛郡印西町船尾301-5-1東京基督神学校内



理事長 佐 布 正 義

### 歴史の継承と奉仕に

そこで、イエスは彼らに言われた、「それだから、天国のことを学んだ学者は、新しいものと古いものとを、その倉から取り出す一家の主人のようなものである」（マタイ一三・五二）

「歴史」と言うには、あまりにも短かい歳月の歩みではあるが、日本福音主義神学会は発足以来、激動する世界の情勢を見据えつつ、また目まぐるしく変化する国内事情の中で、成長を続けてここに目出度く成人の域に達することができ、感謝にたえません。「成長させて下さる神のみ」に、栄光を帰し、この業にたずさわった方々と共に喜びを分ち合うものです。

一般に社会的責任を求められる成人の特質は、明確な自己認識（アイデンティティー）と目的意識にあると言えましょう。神学会は一面において「学会」の性格を持ち、「神学的研究を行ない」、もう一面においては「教会の健全な成長と発達に奉仕する」という目的達成のために存在する有機体で

もあります。そして、一見、性格の異なる二つの領域（論理・中心領域と行為・中心領域）における活動を同一のメンバーによつて行なうところがユニークな学会です。

しかし、主イエスご自身がそうであられたように、主によつて派遣される弟子たちは「天国のこと

を学んだ学者（グラマチュウス・マセテューセイス）」であることが求められています。もちろん後にバウロが言及する「知者、学者（グラマチュウス）、この世の論者」の類の学者とは質的に異なるが、学者であるべきことに変りはありません（コリント一・二〇）。また「隠された奥義としての神の知識」を語るミニストリーリーこそ、主が類比された「新しいものと古いものとを」自由自在に「その倉から取り出す一家の主人」の役割

により思われます。学会員の相互研鑽によつて、卓越した「一家の主人」と成ることに励みたいと願つております。これまでの歩みにおいて、『福音主義神学』の内容を探り、その前提と方法論について検討して参りましたが、「古いもの」と共に「新しいもの」を取り出すための原則が必要とされています。また新しいパラダイムや表象をもつて、古くから在るものを取り出すことも必要でしょう。教会担任の教師（牧師）と、その献身者の養成（弟子化）の奉仕に専ら携わる教師をそのメンバーとし、その「相互の交流」によつて前記の目的の達成を計るということは、最も理想的な機構でもあると考えられます。求められることは、何らかの形における、全会員の参与ということです。学会発足当初の原点に立ち、あの熱意とエネルギーを生む会員の活動を期待し、また願っています。

（全国・東部理事長）

## ■各地区部会報告

### 東部部会報告

○一九九〇年三月二十三日(金)

○春の総会のために、新理事会の理事候補と顧問候補を立てた。

○春の総会・研究会の準備をした。

○一九八九年七月(一九九〇年六月)  
理 事 会 於 OCC

▼理事会改組についての役員会案を検討し、左記のように修正案をまとめ、総会に提案することとした。

①役員理事 四名。理事長、副理事長(部門活動担当理事および総務兼務)、書記、会計

②部門担当理事 七名。一般学(一名)、聖書学(旧約と新約)(二名)、歴史神学(一名)、組織神学(弁証学と倫理学を含む)(一名)、実践神学(二名)。うち一名は宣教學)

③学会誌担当理事(一名)

④無任所理事(三名)

なお、理事会とは別に、顧問会(定員十五名。任期三年)を置き、理事長の招集により必ず年一回開き、理事も出席するものとする。なお、理事の任期は二年とする。

正会員として、中村孝志、竹内茂夫、伊藤明生の三氏の入会を認めた。

○一九九〇年五月七日(月)午後於 OCC の K G K 事務所出席者 約三十七名

○一九九〇年五月七日(月)午後於 OCC の K G K 事務所出席者 約三十七名

▼礼拝 説教 下川友也氏

▼総会 新理事会構成案と顧問会案が提示され、承認された。

さらに、理事の改選が行われ、次のように決定した。

①役員理事 理事長 佐布正義氏。

副理事長 服部嘉明氏。書記 大滝信也氏。会計 荒木寛二氏。

②部門担当理事 一般学 金本悟 氏。聖書学 津村俊夫氏。内田 和彦氏。歴史神学 横山武氏。

組織神学 伊藤淑美氏。実践神学 日置善一氏(欠員一名)。

③学会誌担当理事 木内伸嘉氏。

④無任所理事 蔦田公義氏、下川 友也氏。藤本満氏。

(書記 大滝信也)

さらに、顧問会の顧問は、次の

●J・E・T・S ニュースの編集担当を金本悟氏とすることにした。

### 中部部会報告

○一九九〇年五月二十一日(金)

研究会 第二十一回総会・春期

於 東海聖書神学塾

○一九九〇年五月七日(月)午後於 OCC の K G K 事務所出席者 約三十七名

▼研究会 司会 佐布正義氏。テーマは「福音主義と今日のカリスマ運動」

●発題 「第一回ローザンヌ世界伝道会議から」

中台孝雄氏 「宣教論の視点から」

尾形 守氏 「新約学の視点から」

伊藤顕栄氏 「組織神学の視点から」

宇田 進氏

宇田 公義氏

○一九八九年七月十日(月)

講演会講師 牧田吉和氏

全国研究会議に中部から一〇名の参加を目指とする

# 学 会 誌 編 集 委 員 会 報 告

とき 一九九〇年五月二九日  
午後一時三〇分~三時

ところ 神戸ルーテル神学校  
出席者(敬称略)

内田和彦(東部)、鍋谷  
堯爾、石黒則年=書記  
(西部)

欠席者(敬称略)  
金田幸男(中部)

本会は、日本福音主義神学会、学  
会誌第二一号の編集のために開か  
れたものである。

## 一、全国理事会からの報告

五月二八日に名古屋で開かれ  
た全国理事会の様子が、書記

によって報告された。そのお  
もな項目は次のとおりである。  
(詳細は別紙)

(a) 各部会の理事の交替について  
(b) 会計状況について  
(c) 負担金制度の導入について  
(d) 学会誌関連費用・編集費は二  
一万円、印刷費は一二五万円。

二、学会誌売上げ状況の報告  
一九八九年十一月発行された

第一〇号は、好評のうちに頒  
布されていることが、書記よ  
り報告された。ちなみに、い  
のちのことば社卸部への委託

販売(売上げ)は、約十三万  
円であり、一九八九年度の学  
会誌売上げも順調(約三万  
円)であった。

## 三、第一一号の編集について

第二一号を次のように編集す  
ることを打合せた。

卷頭言 統一テーマ 福音と文化(II)

## 四、第五回全国研究会

議を開催して

山口 昇 福音宣教と天皇制  
の問題をめぐつて

橋本 龍三 日本における祖先  
崇拝と福音

佐布 正義 次回委員会より、一部、委員  
の交替があることが確認され  
た。

木松隆太郎 コーディネーター  
ヨーロッパ・ペーシャ  
ルの宣教論

小川 国光 この世の集団と教  
会の集団

## 論 文

研究ノート

懸賞論文

書評

J.D.G.Dunn

『Romans』 村瀬 俊夫  
G.M.Stanton 「未定」 伊藤 明生  
A.Millard 「未定」 未定

以上

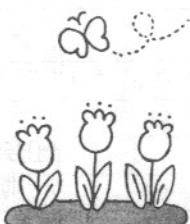
石丸新『バブリック・スピーキング  
としての説教』 未定

未定

鍋谷

議事録確認者

一九九〇年十一月十二日(あ  
るいは二〇日)  
午後一時三〇分より  
神戸ルーテル神学校にて開催  
する。



# ■会計報告

## 日本福音主義神学会(全国会計) 1989年度決算報告および1990年度予算

収		入		
項目	1989年度予算	1989年度決算	項目	1990年度予算
会費	1,200,000	1,280,500	東部負担金	740,000
献金	100,000	150,000	中部負担金	110,000
会誌売上	500,000	317,870	西部負担金	550,000
広告代	300,000	280,000	全国会誌代	200,000
雑収入	0	0	広告代	300,000
借入金	0	136,236	雑収入	0
小計	2,100,000	2,164,606	借入金	0
前期繰越金	25,317	25,317	小計	1,900,000
合計	2,125,317	2,189,923	前期繰越金	31,427
			合計	1,931,427

支		出		
項目	1989年度予算	1989年度決算	項目	1990年度予算
会誌印刷代	1,200,000	1,483,200	会誌印刷代	1,250,000
会誌編集費	210,000	210,000	会誌編集費	210,000
部費	250,000	250,000	理事会費	120,000
理事会費	120,000	106,346	事務通信費	20,000
事務通信費	30,000	2,510	研究助成金	100,000
研究助成金	100,000	50,000	ニュース印刷代	50,000
ニュース印刷代	40,000	56,440	全国名簿印刷費	100,000
予備費	25,317	0	予備費	31,427
借入金返済	150,000	0	借入金返済	50,000
小計	2,125,317	2,158,496	小計	1,931,427
前期繰越金	0	31,427	前期繰越金	0
合計	2,125,317	2,189,923	合計	1,931,427

収入内訳				
東部	中部	西部	その他	合計
700,000	164,000	643,610	520,760	2,028,370

出版基金会計(1989年度決算報告)			
収入		支出	
		全国会計へ貸出	136,236
前期繰越	144,657	次期繰越	8,421
合計	144,657	合計	144,657

## 全 国 理 事 会 報 告

とき 一九九〇年五月二八日  
午後一時半五時  
ところ 名古屋・愛知県中小企業  
センター

出席者(敬称略)

佐布正義、荒木寛二

(東部)

鈴木健二、入川達夫  
(中部)

鷹取裕成、石黒則年  
(西部)

本会は、前期全国理事長・有賀喜一氏(西部)が欠席のため、代理者石黒氏(西部)の祈りと

司会によつて開会された。

報告と議事

**全国理事長と書記の選出**

出席者の合議により、佐布正

義氏を全国理事長に、荒木寛

二氏と石黒氏を書記に、鷹取

氏を会計に選出し、全国理事

長に議長に議長を交替した。

**各部会の報告および委員の紹介**

各部における諸活動と部会理事の紹介がなされた。その主な内容は次の通り。  
(1) 中部  
理事長・鈴木健二氏、書記・河野勇一氏、会計・入川達夫

五

四

三

二

(3)  
東部

報告は別紙。

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、中部数名、東部一名、東部一名の代表者

をもつて準備委員会を組織す

ることとする。

六

氏、学会誌担当・金田幸男氏。  
会員数は、三七名。活動報告  
別紙

(2) 西部

理事長・有賀喜一氏、書記・  
橋本昭夫氏、勝原忠明氏、会  
計・鷹取裕成氏、学会誌担当  
・石黒則年氏、学会誌編集顧  
問・鍋谷堯爾氏。

会員数は、約一三〇名。活動  
担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、中部数名、東部一名、東部一名の代表者

をもつて準備委員会を組織す  
ることとする。

七

学年誌第二号の特集テーマ  
「福音の文化II」、編集状況  
についての報告を受けた。

**全国研究会議について**  
一九八九年十一月に箱根で開催された第五回全国研究会議について、印象と種々の意見が述べられた。今後はさらに参加者の増加をはかる工夫が必要であると察せられる。ま

た第六回会議は、西部を企画担当の部会とし、西部を企画担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画担当の部会とし、西部を企画

八

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

九

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十一

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十二

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十三

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十四

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十五

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十六

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十七

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十八

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

十九

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十一

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十二

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十三

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十四

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十五

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十六

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十七

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十八

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

二十九

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十一

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十二

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十三

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十四

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十五

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十六

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十七

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十八

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

三十九

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十一

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十二

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十三

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十四

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十五

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十六

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十七

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十八

会員数は、約一三〇名。活動

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

担当の部会とし、西部を企画

四十九

●会員異動  
　　松浦剛氏（入会）、羽鳥純一  
　　氏（西部へ）  
　　関連して、他部への転会について  
　　共通のフォーム作成を全  
　　国理事会に提案することとした。  
●部会理事改選結果と構成の確  
　　認  
　　理事長 金田幸男氏  
　　書記 安村仁志氏  
　　会計 鈴木健之氏  
　　学会誌 黒川雄三氏  
　　無役職 入川達夫氏 河野勇  
　　一氏  
○一九八九年十一月六日  
於東海聖書神学塾

●秋季研究発表会に関する確認  
●全国研究会議に中部から七名  
参加する

●一九〇年総会に関する確認  
●会員異動  
　　有田弘、齊藤義信両氏は自然  
　　退会とみなす。これにより現  
　　会員数は三八名となる。

○一九九〇年三月十九日  
一時 於 東海聖書神学塾

●一九〇年総会 講演会について  
●理事会選について  
　　改選理事（黒川、鈴木、河野）  
　　を確認し、理事会の新陳代謝  
と会務の継続性を考慮して次

○一九九〇年五月七日  
十時半 於 東海聖書神学塾

■ 総会の議事に関する件

▼ 会員異動確認・大山田忠一氏  
(名誉会員)召天

▼ 理事改選結果と新構成

理事長 鈴木健之氏  
書記 河野勇一氏  
会計 入川達夫氏  
学会誌 金田幸男氏  
無役職 安村仁志氏、水上勲氏

または明田勝利氏(総会で決定)  
■ 九一年度総会の日程を五月十三日とした

二 第九回中部部会総会  
一九九〇年五月七日(月)

於金山キリスト教会

出席 一五名

▼ 総会

①八九年度の報告と九〇年度の計画について審議、承認した  
②改選理事投票で同点だった水上氏と明田氏のうち水上氏を選出した  
上歎、明田勝利、西堀則男、  
上正敏 各氏

西部部会報告

て行なう

▼秋の研究会議の主題を「教会音楽」

「樂」とし、必要な協力をとりつけることとする。

▼理事の半数改選により、入船尊

氏、橋本昭夫氏、立藤弘雄氏、小川国光氏、眞鍋孝氏が選出さ

ハナガタヒト真鍛志氏が選出されたので、協力を取りつけること

二二四〇

## 二、総会・春期講演会

○一九九〇年五月二日

神戸教会

総会 説教 滝浦滋氏。

告理事長·有喜賀

會計報告 櫻取裕成氏。

講演会  
萬中  
小三国時代。講演

講演  
ハリ国力比

シャルの宣教論

卷之三

卷之三

卷之三